

「病院のなかの英会話」 第2版

みさと健和病院皮膚科医長 庄司 道子
 済生会中央病院内科部長 北原 光夫 著
 追手門学院大学教授・文学部 Jeffrey Herrick

筑波大学臨床医学系講師・小児外科

岩川 真由美

アメリカで暮らしていたとき、私の息子は5歳。予防注射(アメリカの予防注射はたくさん。これを受けないと保育所にいけません)を受けに行った病院で、彼は十分、お医者さんや看護婦さんの言うことを理解していました。“服を脱いで”“はい、息を吸って”“大丈夫よ”“また、来週来てね”など。さて、私が今、外来に来ている患者さんやその親御さんと話すこともたいしたことはありません。“どうしました?”“いつからですか”“大丈夫ですよ”“結果がでるのは来週ですから、またそのときいらしてください”など。“病院のなかの会話”は、簡単で本当にパターン化したものが多いようです。

そこでこの庄司道子先生・他著の「病院のなかの英会話」。本当に役に立ちます。毎週2~3個覚えるだけで、あるいは暇なときにつらつら眺めるだけで、半年もすればもう完璧

です。ここに出てくる会話は初めての単語を覚えるわけではなくて、よく使う単語の組み合わせや言い回しで、とても短い文だけです。とっても簡単。

私は医学生英語クラスも担当しており、この本の第1版を教科書として使っています。“鼻水がズルズル出ますか?”なんて言うときに、runny noseなんて知っていれば“えーと、なんて聞こうか”って悩まずに済みます。科学論文の講義をする合間に気分転換として使っているこのテキストが、彼ら、彼女らが医師になったときに最も役立つことでしょう。

今回、改訂された本には、エイズ、結核などの新しい情報が加わり、更に内容も診療科別、検査別に整理されました。私自身は改訂版のもう1つの売り物である難しい発音の片カナ表記は嫌いで発音記号の表示のは

うが嬉しかったのですが、その点を除けば、すばらしい改訂となっています。

外国の方が病院を訪れることは確実に増えています。受付の方、事務の方、看護婦さん、検査技師の方、放射線技師の方、そしていつもいばっている医長、院長の皆さんが、一冊ずつお持ち下されれば、トラブルは防げるし、ひいては適切な医療が行われること請け合いです。心から御薦めします。

なお、しつこいようですが疾患別、症状別になっていた第1版も是非、手に入れて下さい。では、値段も手ごろな1,648円の「病院のなかの英会話」をよろしく。

● B6変型 頁184 図32 1994
 定価1,648円(税込) 円400